



HEIWA PAPER

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成26年2月13日

上場会社名 平和紙業株式会社

上場取引所 東

コード番号 9929 URL <http://www.heiwapaper.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 勝正

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 浦戸 晴夫

TEL 03-3206-8501

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	15,240	0.7	228	40.9	270	34.0	150	—
25年3月期第3四半期	15,138	1.2	162	22.7	202	10.0	△231	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 253百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 7百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	15.20	—
25年3月期第3四半期	△23.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	17,505	7,707	44.0
25年3月期	17,048	7,552	44.3

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 7,707百万円 25年3月期 7,552百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	5.00	5.00
26年3月期	—	5.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,560	1.0	262	1.2	307	3.7	170	—	17.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	10,116,917 株	25年3月期	10,116,917 株
26年3月期3Q	251,765 株	25年3月期	250,647 株
26年3月期3Q	9,865,955 株	25年3月期3Q	9,867,748 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却と経済再生を目指す政府の経済政策が着実に進められた結果、緩やかに回復を続けています。個人消費は一時の勢いがやや鈍化したものの、雇用・所得環境の改善や株価の上昇を背景に、高額商品の好調な売れ行きに見られるように依然として堅調を維持しています。企業収益は輸出が伸び悩む一方で、設備投資の先行指標が増加基調にあることや、景況感の幅広い改善に見られる内需の回復等により持ち直しています。平成26年4月に予定されている消費税率引き上げを前にした駆け込み需要も今後見込まれることから、年度末にかけてわが国経済の成長ペースは加速気味に推移すると思われま

紙業界におきましては、洋紙・板紙の国内出荷量は前年同期実績を上回りました。印刷用紙においては円安による輸入紙の減少で国内品への振替があったことや、10月後半からの平成25年度2度目となる価格修正に伴う前倒し需要が発生したこと等から、商業印刷分野の主要品種であるカタログ・パンフレット向け塗工印刷用紙は7月以降連続で前年同月実績を上回りました。また、板紙分野では段ボールが年末商戦関連の堅調な需要に支えられて出荷量を伸ばしましたが、紙器用白板紙は昨今の省資源化の流れに加え、軟包材との競合やコスト節減の要請等から見直しが進んだ結果、前年同期実績を下回る出荷実績で推移しています。

このような環境の中で当社グループは新3ヶ年計画の2年目を迎え、持てるサービス力を一枚の紙に結集することを通してお客様のニーズに応えようと全社一丸となった販売努力を継続し、高級印刷紙をはじめ、ベーシックペーパー、その他の3品目において前年同期実績を上回ることができました。

その結果、売上高は152億40百万円（前年同期比0.7%増）となりました。利益面では経常利益は2億70百万円（前年同期比34.0%増）、四半期純利益は1億50百万円（前年同期は四半期純損失2億31百万円）となりました。

<当社の商品別の概況>

当社グループは、和洋紙の販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであり、当社の和洋紙卸売業の売上高は連結売上高の90%超を占めるため、当社の商品別の概況を記載しております。

品目別	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンシーペーパー	3,859	26.9	3,854	26.8	△0.1
ファインボード	1,744	12.1	1,741	12.1	△0.2
高級印刷紙	3,418	23.8	3,474	24.1	1.6
ベーシックペーパー	3,568	24.8	3,663	25.5	2.7
技術紙	1,489	10.4	1,363	9.5	△8.5
その他	290	2.0	292	2.0	0.8
合計	14,370	100.0	14,389	100.0	0.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

[ファンシーペーパー]

個性豊かな装飾性の高いファンシーペーパーは、出版物の表紙・カバー・見返しをはじめ、パッケージ、カレンダー等に幅広く採用されました。秋の需要期には書籍分野でのヒット作にも恵まれ販売実績に大きく貢献しましたが、用紙コスト削減の影響による市場の縮小傾向が依然根強く、前年同期実績を上回ることができませんでした。

その結果、売上高は38億54百万円となり前年同期比0.1%の減少となりました。

[ファインボード]

包装材として美しさや高級感により訴求力のあるファインボードは、カード紙やパール調加工紙、植毛紙といった高付加価値商品が、DVDケースやパッケージ用途に数多く採用され、販売実績を押し上げました。しかしながら、価格的な要因から一般白板紙に切替わる流れがまだまだ続いており、前年同期実績を上回ることができませんでした。

その結果、売上高は17億41百万円となり前年同期比0.2%の減少となりました。

[高級印刷紙]

印刷適性の良さに加え、色再現性等も兼ね備えた高級印刷紙は、カレンダー、パンフレット、カタログ等の多様な用途での採用実績がありました。また、環境対応型の新商品も徐々に市場に浸透してきており、汎用的な幅広い用途に使用されるようになり、前年同期実績を上回ることができました。

その結果、売上高は34億74百万円となり前年同期比1.6%の増加となりました。

[ベーシックペーパー]

一般的な印刷物に幅広く使用されるベーシックペーパーは、商業印刷物やチラシ、封筒等の用途に数多く採用されました。また、10月後半以降の製紙メーカー各社による用紙の価格修正を見越して、価格修正前の買い増し傾向があったことも販売実績増に寄与し、前年同期実績を上回ることができました。

その結果、売上高は36億63百万円となり前年同期比2.7%の増加となりました。

[技術紙]

機能を付与した技術紙は、これまで安定的に出荷実績のあった電飾パネル用途向けの合成紙が需要不足から出荷量が減少したことに加え、これまで災害による供給ストップで代替供給をしていた電子機器製造用工程紙が本来の供給体制の回復により出荷量が激減したことから、前年同期実績を上回ることができませんでした。

その結果、売上高は13億63百万円となり前年同期比8.5%の減少となりました。

[その他]

トイレットペーパーやティッシュペーパーを中心とした家庭紙やその他の製紙関連資材の販売量は、前年同期実績に比べ僅かに減少しました。しかしながら、アベノミクスによる株価上昇で株の売買取引が活発化したことに伴い、金融機関向けの圧着ハガキの売上が好調に推移し、前年同期実績を上回ることができました。

その結果、売上高は2億92百万円となり前年同期比0.8%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4億56百万円増加して、175億5百万円となりました。主な要因は、現金及び預金は73百万円減少いたしました。受取手形及び売掛金が2億12百万円、商品が3億円増加したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べて3億1百万円増加して、97億97百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が3億57百万円増加したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1億54百万円増加して、77億7百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金が96百万円、利益剰余金が51百万円増加したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成25年2月に成立した政府の緊急経済対策の波及効果と、雇用・賃金の緩やかな増勢に加え、平成26年4月の消費税率引き上げを前にした耐久財等の駆け込み需要も見込まれることから、わが国経済は高めの成長が続くことが期待されます。円安に伴う原材料価格上昇を主因とした企業収益圧迫の懸念は依然としてあるものの、投資意欲が改善傾向にあるため民間投資はさらに活性化すると見られ、わが国経済は平成25年度終盤に向け比較的順調な回復ぶりを示すものと思われま。

紙業界におきましては、国内景気のプラス成長が加速している中で、洋紙・板紙の出荷量にも復調の兆しが見受けられます。しかしながら、紙パルプ産業においては、制作物の部数減やサイズの縮小化、電子媒体へのシフト、用紙の薄物化やグレードダウン等の趨勢的な流れの中で、依然として輸入原燃料価格の高騰が収益を圧迫する事態は完全には解消されておりません。このため製紙メーカー各社は、平成25年2月に続いて10月にも製品価格の値上げを実施しました。年度終盤にかけて印刷用紙需要は底堅く推移すると見込まれるものの、需要家の紙離れや使用量の減少といったマイナス要因に加え、国内価格の上昇を受けて中国からの輸入量増加等の懸念材料も散見されることから、出荷量の大幅な増加はいまだ期待できない状況です。

当社グループといたしましては、本業である紙流通の原点に立ち戻り、付加価値の高い取扱い商品のさらなる拡充を目指してまいります。すでに、高級印刷紙の新しいスタンダード商品「ベイベーフェイス」等のFSC®森林認証紙に加え、月のイメージを表現した「かぐや」、従来品を発展させた「Magカラー」、落ち着いた色柄の「クラシックコルムス」等の本格的ファンシーペーパーを複数上市し、積極的な販売活動を展開中です。

また、平成24年よりスタートした第8次3ヶ年計画の方針に沿って、それぞれの部門において個別具体的な戦略を引き続き着実に実行してまいり所存です。顧客ニーズに沿った効果的な用紙提案、常備在庫品の安定供給及び物流面での対応はもとより、販売機能の様々な強化策を通じて、あらゆる面でお客様へのサービス向上と自社の業績拡大を図ってまいります。

なお、平成26年3月期の連結業績につきましては、平成25年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,473,668	2,400,361
受取手形及び売掛金	7,227,826	7,439,906
商品	3,497,737	3,798,613
貯蔵品	67,633	87,214
その他	201,679	167,756
貸倒引当金	△32,174	△25,287
流動資産合計	13,436,370	13,868,564
固定資産		
有形固定資産	1,068,318	1,029,766
無形固定資産	126,003	84,852
投資その他の資産		
投資有価証券	1,687,060	1,830,368
その他	790,827	755,676
貸倒引当金	△59,776	△64,186
投資その他の資産合計	2,418,110	2,521,858
固定資産合計	3,612,432	3,636,477
資産合計	17,048,802	17,505,041

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,040,556	6,397,984
短期借入金	2,416,979	2,539,206
未払法人税等	63,219	34,990
賞与引当金	105,296	56,893
その他	233,511	238,749
流動負債合計	8,859,563	9,267,824
固定負債		
退職給付引当金	331,638	295,390
資産除去債務	77,813	78,993
その他	226,798	155,318
固定負債合計	636,250	529,702
負債合計	9,495,813	9,797,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,107,843	2,107,843
資本剰余金	2,331,387	2,331,387
利益剰余金	3,105,933	3,157,275
自己株式	△122,726	△123,035
株主資本合計	7,422,439	7,473,471
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	128,389	225,343
為替換算調整勘定	2,160	8,698
その他の包括利益累計額合計	130,549	234,042
純資産合計	7,552,988	7,707,514
負債純資産合計	17,048,802	17,505,041

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	15,138,536	15,240,704
売上原価	12,185,243	12,298,057
売上総利益	2,953,292	2,942,647
販売費及び一般管理費	2,790,959	2,713,909
営業利益	162,333	228,737
営業外収益		
受取利息	6,859	8,605
受取配当金	20,676	31,498
受取賃貸料	16,425	16,337
その他	28,913	14,663
営業外収益合計	72,873	71,105
営業外費用		
支払利息	11,510	10,587
為替差損	11,945	10,371
賃貸用資産減価償却費	6,281	5,096
その他	3,368	2,882
営業外費用合計	33,105	28,938
経常利益	202,102	270,903
特別損失		
固定資産除却損	21,214	3,823
投資有価証券売却損	103,300	—
投資有価証券評価損	234,113	—
ゴルフ会員権売却損	—	3,045
特別損失合計	358,628	6,868
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△156,526	264,034
法人税、住民税及び事業税	36,489	81,535
法人税等調整額	38,498	32,496
法人税等合計	74,987	114,031
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△231,514	150,002
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△231,514	150,002

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△231,514	150,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	226,007	96,954
為替換算調整勘定	13,424	6,538
その他の包括利益合計	239,432	103,492
四半期包括利益	7,918	253,495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,918	253,495

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。